

Wiener Cello Ensemble 5+1

# ウィーンチェロ・アンサンブル5+1

日本オーストリア友好150周年記念

2019年2月 満を持しての東京デビュー!



1挺のチェロを4人で演奏する神業ボレロ!  
YouTube再生回数100万回に迫る!

往年のウィーンフィル名手カウフマンが手塩にかけた  
究極のチェロ・アンサンブル!

2018年ウィーンフィルのニューイヤーコンサートの  
解説で話題のペルシハルト直樹ヘーデンボルクも登場!

2019

2/24 [日] 14:00開演 (13:30開場)  
サントリー大ホール

◆全指定席 S席8,000円 A席7,000円 B席6,000円 C席5,000円  
(税込)  
\*未就学児童の入場はご遠慮ください

9月29日[土]前売開始

- ◆ ノア・チケット ..... 03-3417-7000
- ◆ チケットぴあ ..... 0570-02-9999 (Pコード 123-958)
- ◆ ローソンチケット ..... 0570-084-003 (Lコード 33180)  
0570-000-407 (オペレーター対応)
- ◆ e+(イープラス) ..... <http://eplus.jp/>
- ◆ サントリーホールチケットセンター ..... 0570-55-0017  
<http://suntory.jp/HALL/>

主催 = NoaH Music

後援 = オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム

◆ご予約・お問い合わせ = ノア・チケット 03-3417-7000

## Program

### 第1部

スメタナ：オペラ《売られた花嫁》より  
 ラロ：チェロ協奏曲二短調より 第2楽章 間奏曲  
 ハイドン：チェロ協奏曲第1番より 第3楽章  
 チャイコフスキー：アンダンテ・カンタービレ  
 ロココの主題による変奏曲

### 第2部 'スペインへの旅'

E.シュトラウス1世：ポルカ《テープは切られた》  
 ガーシュウィン：サマータイム～  
 リムスキー=コルサコフ：熊蜂の飛行  
 コメディアン・ハーモニスツ：美しきカステイーリヤ女王イザベル  
 ビゼー：恋は野の鳥 (ハバナラ)  
 モンティ：チャールダーシュ  
 ファリャ：スペイン舞曲 第1番  
 レハール：君こそわが心のすべて

### アンコール

ラベル：ボレロ ほか

\*曲目は一部変更となる場合がございます





## 親愛なる皆さまへ

この度‘ウィーンチェロ・アンサンブル5+1’がサントリーホールで演奏させていただく運びとなりましたこと、リーダーとして心から感謝申し上げます。

1969年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のチェリストとして、サー・ゲオルク・ショルティと共に初めて来日して以来、毎年ウィーンフィルのメンバーとして東京に参りました。1986年のサントリーホール落成記念にウィーンフィルが招かれた際の公演は私にとりまして極上の出来事でした。そしてその音響は心に残る優れたものでした。

今、ここで室内楽奏者として、私のチェロ・アンサンブルと共にサントリーホールで演奏できることは喜びもひとしおです。まるで自分の家に戻ってきたかのように感じるこのホールを、私はとても愛するようになっていきます。

私達はもう今から、この素晴らしいサントリーホールでの演奏会を大変楽しみにしております。

皆さまお元気で

ゲルハルト・カウフマン

Wiener Cello Ensemble 5+1

## ウィーンチェロ・アンサンブル5+1

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の団員を中心とした男性5名+女性1名によるチェロのみの編成です。

クラシック音楽の名作をチェロ編成の曲として演奏するほか、チェロ協奏曲を6名で演奏します。クラシック以外の曲のレパートリーも大変豊富です。ラヴェルのボレロを一挺のチェロと3本の弓とで、4名で演奏する演奏がYouTube再生回数100万回に迫る勢いで世界中のコンサートホールでブレイクしました。

ウィーンチェロ・アンサンブル5+1は、2008年往年のウィーンフィルの名チェリスト、ゲルハルト・カウフマンによって設立され、彼は長年の夢を実現することができました。その夢というのは、高い芸術的な理想を失うことなく、伝統的なクラシック音楽から少し外れた小道を辿ってみるチェロ・アンサンブルです。聴衆には、音楽史上の名曲を完璧な演奏技術で聴くばかりでなく、コンサートを存分に楽しんでほしい、いい気分が家路についてほしいとの願いからです。

このチェロ・アンサンブルのコンサートは、このような新しいコンセプトで際立っています。



第1部は音楽史上重要な作品をチェロのための思いもよらぬ新たな編曲で提供します。

第2部は演奏される曲には演劇的な要素が加えられます。演奏者は演奏だけでなく俳優としても表現に参加し、音楽的、演劇的なギャグによって一層チャーミングでユーモアに満ちた舞台が聴衆には約束されています。カウフマン自らがプログラムを紹介し演劇だけでなく音楽の魅力や、作曲上のシュマンケルン(バイエルン名産のクッキー)をお示しします。この構成はヨーロッパばかりでなく中国でも大成功を収めています。

Sebastian BRU

### セバスティアン・ブルー

1987年ウィーン生まれ。8歳よりウィーン・フォルクス・オーパーの首席であった父のもとチェロをはじめ。数々の青少年コンクールに優賞した後2010-11年のシーズンからウィーン交響楽団の第1ソロ・チェリスト。その間、ウィーン交響楽団、ウィーン室内管弦楽団、ブエノスアイレスのナショナルオーケストラのソリストとして、ヨーロッパはもちろんのこと南米やアジアも訪れた。2006年ウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団。2013年よりウィーンフィル・メンバー。

Florian EGGNER

### フローリアン・エックナー

リンツ近郊に生まれた彼は、7歳でチェロをはじめ。1990年にはブルックナー音楽院に入学し、1997年にはウィーン・アカデミーでウィーンフィルの前首席ウォルフガング・ヘルツァーとシュテファン・クロプフィツチュに、後にザルツブルク・モーツァルテウムでクレメンス・ハーゲンに師事した。1996年プリマ・ラ・ムジカ第1位、1999年ペルチャッハの国際ブラームス・コンクール第1位、2003年メルボルン国際室内楽コンクール第1位。3兄弟で1997年に結成したエックナー・トリオが好評を博している。

Bernhard HEDENBORG

### ベルンハルト直樹ヘーデンボルク

1979年ザルツブルク生まれ。ハインリッヒ・シフ10年にわたり師事する。その後、ダヴィド・ゲリンガス、ザラ・ネルソヴァ、マイクロシュ・ペレーニらのもとで研鑽を積んだ後、室内楽をジェルジュ・クルターグ、アルバンベルク弦楽四重奏団、アマデウス弦楽四重奏団、アルティス弦楽四重奏団、ハーゲン弦楽四重奏団等に師事した。2008-2011年トーンキュンストラ・オーケストラで首席奏者を務めた後ウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団。2014年よりウィーンフィル・メンバー。

Milan KARANOVIC

### ミラン・カラノヴィチ

1980年ベオグラード生まれ。8歳でチェロをはじめ、2005年同地の音楽アカデミーを卒業。2006年までウィーンで学ぶ。ロストロポーヴィチ、マイスキー、マルティン・レアーらのマスタークラス。イタリア、ベオグラード、ウィーン、ドレスデン等多くのコンクールで1位。2010-11年バイエルン放送管弦楽団の次席奏者、2013-14年ザルツブルク・モーツァルテウムの次席奏者、2016年よりウィーン室内管弦楽団のメンバー。

Gerhard KAUFMANN

### ゲルハルト・カウフマン

1943年オベルシュツェン(オーストリア)生まれ。父はピアニスト、合唱指揮者、音楽教師養成学校教授。4歳でピアノをはじめ18歳まではピアノ演奏家になるべく励む。13歳のときチェロに初めて触れ15歳よりフィラハの音楽学校でチェロを学び、18歳でウィーンのアカデミーで音楽教育学、指揮法、作曲、チェロを学んだ。1969年ウィーン国立歌劇場管弦楽団に入団。1973-2008年ウィーンフィル・メンバー。

Joanna SACHRYN

### ジョアンナ・サハリン

音楽家の家庭に育ち16歳のときジュネス・ムジカールとともにラローの協奏曲をパリやロンドンで奏き、17歳でシュチェチン・オペラのソロ・チェリストを務めた。ロストロポーヴィチの薫陶を受けたほか、ショルティ、アーノンクールとも共演。レーゲンスブルクフィルのソロ・チェリストとして活躍。2008年よりウィーンチェロ・アンサンブル5+1のメンバー。